

いぶすきまるごと博物館

vol.188

「指宿」の地名の由来は「湯豊宿」という語が変化したものだと言われてきました。その証拠に、昭和33年(1958)に刊行された「指宿市誌」には、「指宿」という地名について、「言語学的には、『イブスキ』の語源は『ユホスキ』(湯豊宿)であるとする。『ゆ』が『い』に変化したもので、(中略)この『イホスキ』がいつ頃から指宿になったかについては全く不明である」と書かれています。南田田の光明禅寺には、天文12年(1542)に作られた市指定文化財「板碑『湯豊宿』」が安置されており、16世紀中ごろに指宿の地が「湯豊宿」と呼ばれていたことを示しています。

しかし「イブスキ」の地名は、さらに古い平安時代の文献「延喜式」に登場します。「延喜式」には「指宿」と書かれ、「イブスキ」と読まれていました。「指」という字は、「礼節」を表す縁起の良い字であり、和銅6年(713)に発布された「諸国郡郷名著好字令」(地域の郡や里の名前には、必ず縁起の良い名を使うようにした法律)によって、用いられるようになりました。つまり、この法律によって表記が変えられ、「イブスキ」の語の持つ本来の意味は失われてしまったのです。その後、「指」から「い」へ長い年月をかけて変化したことが考えられています。

では、「イブスキ」という地名にはどのような意味があったのでしょうか。指宿の地名研究家である小川亥三郎氏の説を基に、その意味を考えてみます。古代の日本語では「イ」と「ユ」は交代しやすい性質がある

「指宿」の地名の起源

ことが指摘され、その証拠に16世紀の文献には「イブスキ」と「ユフスキ」の両方があります。古代においては「イブスキ」と「ユフスキ」という語が混在していたようです。そこで、次に「ユフスキ」の語を解体してそれぞれの意味を検討してみましょう。

指宿には湯のつく小字名が28カ所あり、近隣自治体と比較するとその多さは群を抜いています。つまり「ユフスキ」の「ユ」は「湯」という意味があったと考えられ、当地の温泉資源の豊富さを示した語であると考えられます。次に「ユフスキ」の「フ」は「生」が考えられます。「生」は、元来、植物や鉱物資源が産出される場所を示す語であり、国内でも山口県山陽小野田市植生(ハブ=粘土)、香川県丹生(ニブ=赤土)などの例があり、「ユフ」も「湯生」と解釈できます。最後の「スキ」は、「日本書紀」に登場する白村江は、「村」を「スキ」と読む事例が知られており、古代日本ではこの用例があったことが考えられます。

以上の点から、従来「指宿」の語源と考えられてきた「湯豊宿」は、16世紀の一時期に使用された例に過ぎず、「指宿」の淵源は奈良・平安時代までさかのぼる「湯生村」である可能性が浮上しました。古代の「湯生村」は表記が変えられ、長い年月の中でその意味自体は失われてしまいましたが、音としては現代まで受け継がれたのです。私たちが住むこのまちが、いかに温泉資源に恵まれた土地であるかを表す地名と言えるでしょう。

歴史文化課文化財係 ☎②5100

指宿市の魅力を発信!

特産品シリーズ

Special Product Series Vol.58

二人三脚で造る 和と洋のコラボレーション



山川福元にあるアルボレは、馬場小百合さんと仲由理さんの二人三脚で、加工食品を製造している。「アルボレ」は、ポルトガル語で「木」を意味し、一級建築士として馬場木工所を経営していた小百合さんの亡夫、龍幸さんが命名した。東シナ海を一望できる小高い丘にたずむ、龍幸さん手作りの事務所を訪れると、木のぬくもりと開放感にあふれていた。

今回紹介する商品は、ニンニクやアーモンドなどをオリブオイル漬けにして完成する調味オイル「オリブオイルコンフィ」だ。龍幸さんは南米で生活していた頃、オリブオイルの最高級品「エキストラバージンオリブオイル」と出会い、香りやうま味に魅了された。現地でも味わったオリブオイルの味が忘れられなかった龍幸さんは帰国後、指宿で生産されるものを使って商品を作れないか考え、南米からオリブオイルを仕入れ、製造を開始した。龍幸さんたちは、味だけでなく食感も楽しめる商品を開発した。指宿には多くの特産品があり、オリブオイルに合うものを探した結果、地元のかつお節にたどりついた。オリブオイルのほのかな辛みと苦味は、かつお節の風味とうま味にマッチすると考え、早速試作品を作ってみたが、理想の味とは程遠いものだった。「素材の風味やうま味を生かしたものを作りたい」と話し、小百合さんと仲さん、エビやアーモンドなどを入れた時間やかつお節の厚さ、オイルの量を何度も調整すること



で、オリブの風味とかつお節のうま味やサクサクとした食感を生み出すことができた。焼いた食パンに付けて食べるのもおいしいが、今の季節は、湯豆腐やお餅にかけて、オリブとかつお節の香りが立ち、食材のうま味を引き立ててくれるという。「夫の遺志を継いで、これからも地元のものでおいしいものを作っていきたい」と力強く話す小百合さんの言葉には、亡き夫の夢を受け継ぐ意志と、指宿への愛が込められていた。

☎ふるさと納税室特産品振興係 ☎②1111 ☎④147

燃ゆる感動がごしま国体・かごしま大会

ボッチャ体験教室を開催

燃ゆる感動がごしま国体・かごしま大会指宿市実行委員会事務局 (ふれあいプラザなのはな館内) ☎②1014



令和5年(2023)「特別全国障害者スポーツ大会(燃ゆる感動がごしま大会)」の本市開催競技として新たに追加された「ボッチャ競技」の普及を図るため、県ボッチャ協会と市スポーツ推進委員会の協力により、11月27日(土)市生涯学習フェスティバルでボッチャ体験教室を行いました。参加者は、初めに的あてゲームなどでボールの感覚



をつかんだ後、講師からルール説明を受け、試合形式で競技を体験しました。競技体験は、友達や親子対戦で大いに盛り上がり、競技の魅

力である「障害の有無に関わらず、老若男女、誰でも楽しむことができるスポーツ」をPRすることができ、体験後は「初めてだったが楽しかった。また参加したい」とうれしい感想をもらいました。

大会の円滑な競技運営に向け、スポーツ推進委員の皆さんには、ボッチャ競技審判員養成講習会への参加など協力をいただいています。今後もさまざまなイベントで体験教室などを行い、競技への関心を深め、両大会を盛り上げていきます。皆さんの協力をよろしくお願いいたします。



スポーツでまちを元気に Sports Commission スポ☆コミ Vol.20

全国から指宿に来ていただきありがとうございます!

- 第17回全日本ろう者サッカー選手権大会
参加4チーム：北海道、東日本、西日本、九州 各エリアの選抜チーム
優勝 東日本選抜チーム
- 第8回全日本女子ろう者サッカー選手権大会
参加2チーム：東日本、西日本 各エリアの選抜チーム
優勝 西日本選抜チーム



「指宿手話サークルの花」の皆さんは、手話通訳だけでなくとどまらずボールボーイや補助員で活躍。17回の大会の歴史で初めて競技運営に地域が連携する貴重な取り組みとなりました。

SC I (スポーツコミッションいぶすき) は、人口減少対策の一つとして、スポーツ合宿、大会、イベントを誘致・開催することで指宿に訪れる人を増やし、地域交流や地域経済の活性化につなげる取り組みを行っています。

告知 合宿情報 公開練習 女子トップチームが開間にやって来る!

日本女子ソフトボールリーグ1部 トヨタ自動車レッドテリアーズ 2月7日(日)~19日(土) 9:00~17:30 @開間総合グラウンド

- 主な成績
- 日本女子ソフトボールリーグ1部2021シーズン2位
- 第71回全日本総合女子ソフトボール選手権大会優勝 (燃ゆる感動がごしま国体ソフトボール競技リハーサル大会)

*公開練習となっていますが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や荒天時などの際は、練習の変更や中止の可能性あります。



令和元年9月国体リハ大会優勝時に撮影 開間総合グラウンドにて

☎SC I 事務運営部 ☎②1014